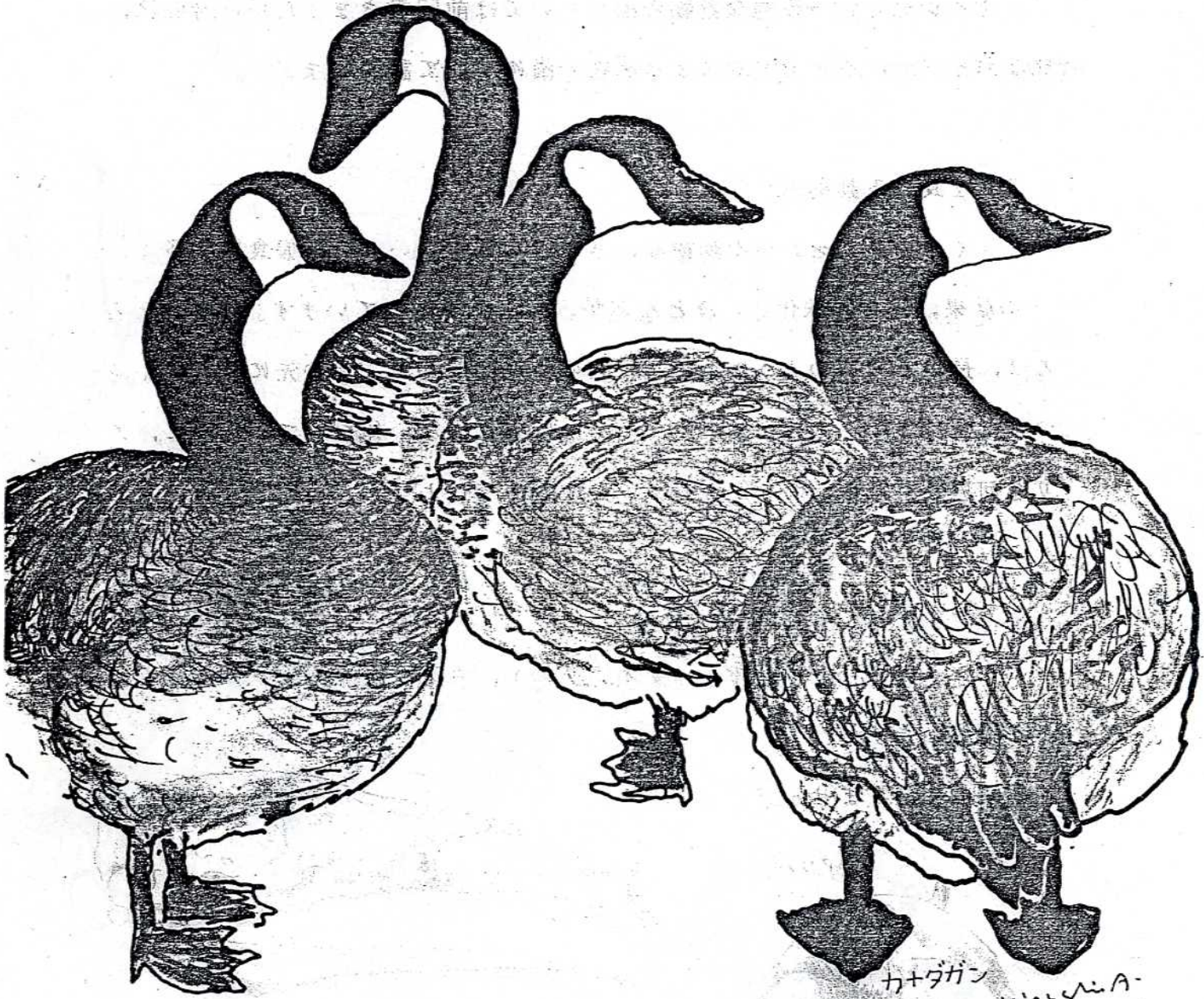


旭山動物園ニュース

モユウ・カマイ



カ+ダガン

Hine ni A.
'82.4.

4

1982.4

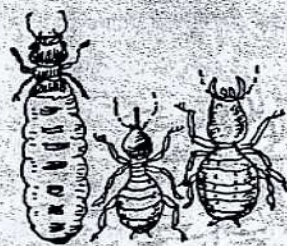
動物学入門

その4 歯について(II)

イヌやウシなど、一般的な動物の歯については前回書きましたが、今回は、特殊な餌(アリ, 魚)を常食にする動物の歯について説明します。

1 アリを食べる動物

アリやシロアリを食べる動物は、他に何も食べないという偏食家が多く、その結果、歯も特殊化し、ほとんどが、退化、消失しています。アリをとるのは、長いミミズのような舌で、唾液の粘着性が強く、舌の先にアリをくっつけて食べます。それにしても、そんなに小さくない体をしているのに、アリを何匹食べたら、おなかいっぱいになるのでしょうか。



A アリクイ (貧歯目)

ミナミアメリカに分布し、オオアリクイ、コアリクイ、ヒメアリクイの3種がいます。

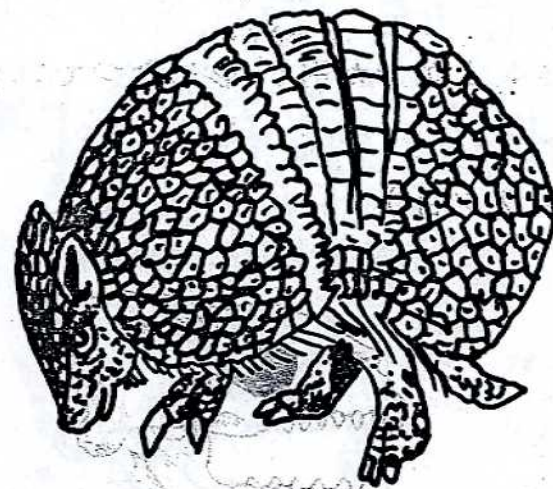
歯は全くありません。



(コアリクイ)

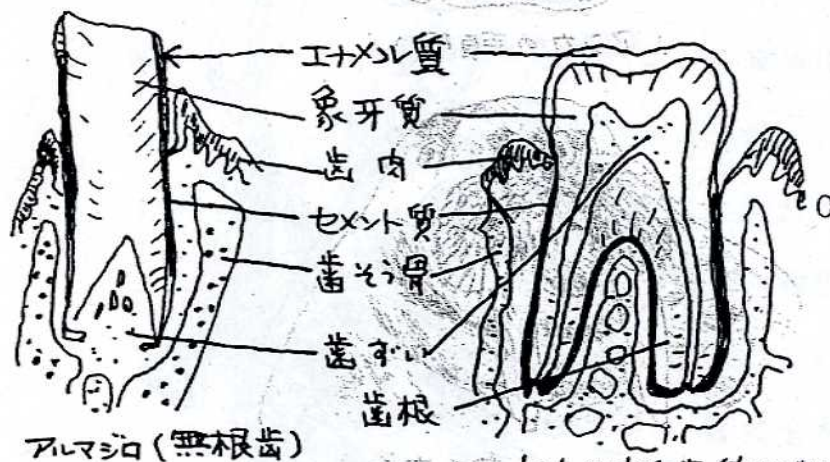


(コアリクイの頭骨) 歯は1本もありません。細長い口は、長い舌を入れるさやのようです。



B アルマジロ (貧歯目)

ミナミアメリカに分布し、アリやシロアリのほか、ヘビ、トカゲなども食べます。歯は片側のくぼんだ円柱状で、歯根はなく、薄いエナミル質でおおわれ、あまり強固ではありません。歯の大きさは、不ぞろいで、歯形の区別もありませんが、数は多く、100本もある種がいます。



アルマジロ(無根歯)

ヒトの犬歯(有根歯)



(ツチブタ)

D センザンコウ (有鱗目)

東南アジアとアフリカに分布し、全身松かさのような角質のウロコでおおわれています。この動物にも歯は全くありません。



(オオセンザンコウ)



(センザンコウの頭骨) 歯は1本もありません。

C ツチブタ (管歯目)

アフリカに分布し、ふんの長い小型のブタのような姿をしています。歯はありますが、成獣では門歯、犬歯はなく、管状の象牙質が、ぎつしりつまつた柱状の臼歯だけです。永久歯にはえ換わらない乳歯が多いうえ、大臼歯にも乳歯があるので、歯の数は成獣の方が少なくなります。

乳歯の歯式は $\frac{3}{3} \frac{1}{1} \frac{6}{6} \frac{5}{5}$ で、永久歯は $\frac{0}{0} \frac{0}{0} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$ です。

2 魚を食べる動物

魚を捕えるために、臼歯は臼型でなく、^{うす}とがった^{えんすい}円錐形になっています。

A アシカ、アザラシ、セイウチ（ヒレアシ目）

門歯はふつう退化して小さく、臼歯は進化上、二次的に単純化し、どれもとがった円錐形をしており、大臼歯と小臼歯の区別がありません。

歯式は $\frac{3}{2} \frac{1}{1} \frac{4}{4} \frac{1}{1}$ です。

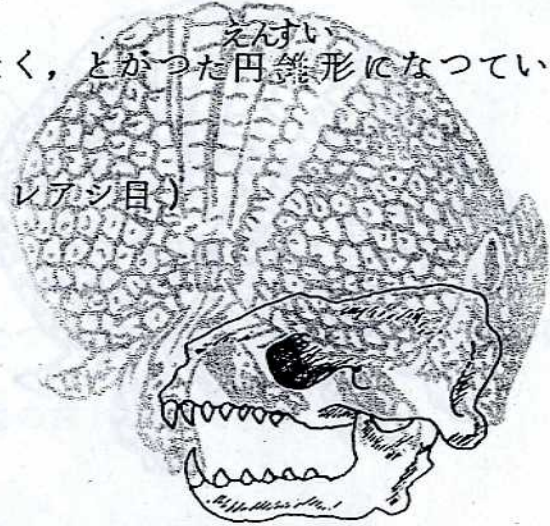
例外として、セイウチは上あごの犬歯が巨大化し、牙となっており、臼歯は臼型のままです。これは二枚貝を食べるための適応と考えられています。

歯式は $\frac{1}{0} \frac{1}{1} \frac{3}{3} \frac{0}{0}$ です。

B イルカ、シヤチ、マッコウクジラ（クジラ目）

歯は非常に数が多く、単純なクイ型をしています。この歯は魚を捕えるだけで、かみくだいたりするためには使われませんが、シヤチ、オキゴンドウは魚をかみちぎって食べます。

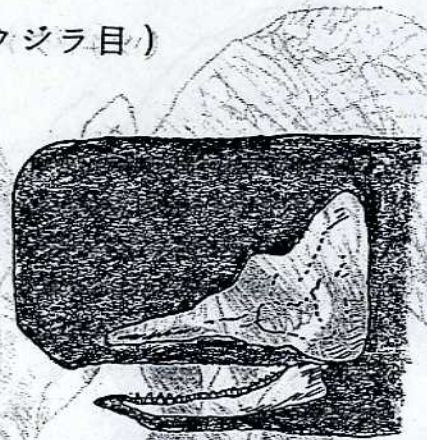
イヅカクは上あごの先に2本だけ歯があります。雄は左の歯が前方へ長く伸びて、らせん状の牙となっていますが、雄の右歯や雌の歯は上ガク骨の中に埋まっています。この牙は2.8 mにも達しますが、実際、何の役にも立たないようです。



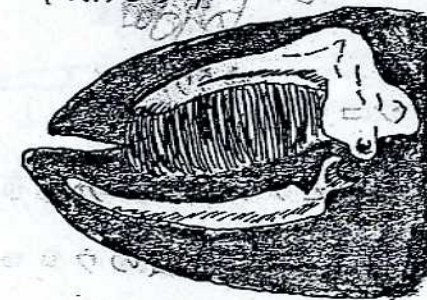
(アシカの頭骨)



(セイウチ)



(イルカ)



(マッコウクジラ)

「ほぐらの友達・身近な仲間」

★北海道の動物★

その4 エゾシカ

Cervus nippon yezoensis



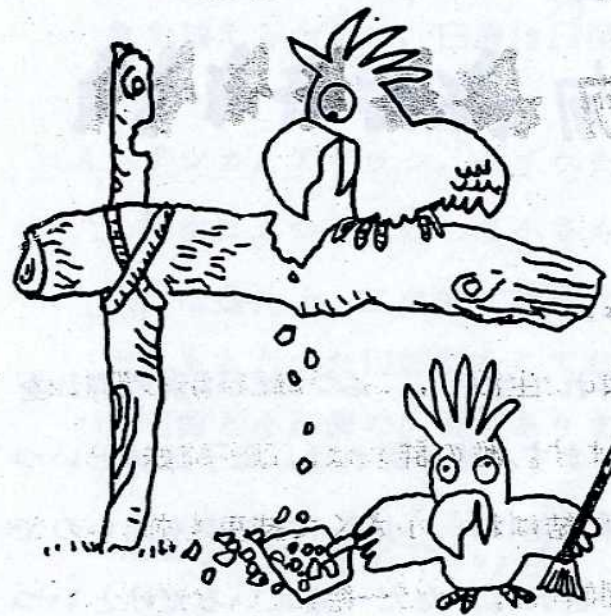
シカは群れで生活し、ふつう雌とは別の群れをつくっています。雌の群れは、母子姉妹といった家族関係で結ばれ、小さくて結束も強いのですが、雄の群れは、ただ一緒にいるだけといった群れです。秋～冬の繁殖期には、成獣の雄一頭と雌群という、やや大きな群れをつくりまします。群れにはリーダーがいて、移動の先頭となり、警戒音を発して、群れに危険を知らせます。

エゾシカはアイヌの人たちの生活に欠かせない動物でした。肉は食料に、毛皮は衣料や寝具に、角は矢先や槍先に使われていました。アイヌの人たちが、クマやサケを神として、敬つたのに対し、重要な生活資源であつた、シカに対しては何の祭儀も行つていません。それはシカが全道に数多く生息しており、いつでも入手することができたからだと言われている。明治に入り、北海道が開発され始めたころから、シカが産業の対象となり、乱獲され続け、昭和の初期には、絶滅寸前の状態になりました。しかし、禁猟等の保護対策の結果、ようやく回復し、最近では、旭川市内にまで姿を見せるほどになりました。現在は、期間と場所を限定して、雄のみが狩猟の対象となっています。

シカのように群れをつくり、より大きな強い雄が、繁殖に関与する動物にとつて、狩猟の影響は大きいと考えられます。狩猟者はより大きな個体を狙い、その結果、最上ではない雄が繁殖に関与することになります。だんだんと群全体が、強く大きな子孫を残せなくなってしまうのではないのでしょうか。

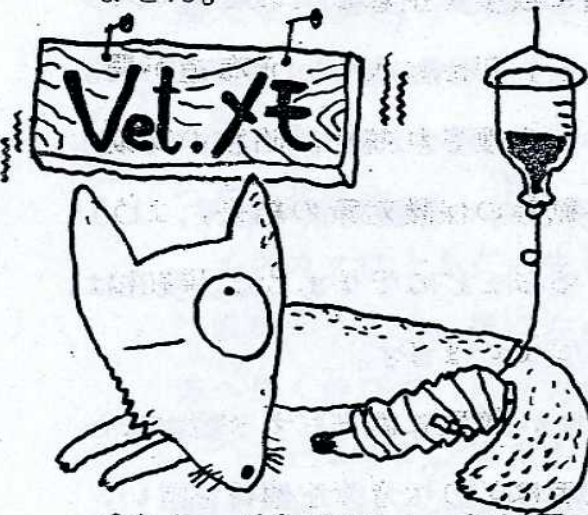
飼育回誌より

ストレス解消法



動物園にはコンゴウインコ、オオバタン、ヨウム等、インコ・オウム仲間が10羽います。秋の閉園後、展示場から暖房のある部屋へ移動する際、鳥の健康を考え、プレハブ舎の一室にコンゴウインコ以外を放し飼いにするにしました。壁には鉄板を張り、金網は二重にして、ある程度かじらせるつもりで、太さ1.5cmもある丸太を組んでやりました。

「これで大丈夫、広い部屋でゆつくりしなさい。」と放してやりました。…が、止り木の丸太は鉛筆の先のように、だんだん短かくするし、鉄板には大きな穴をあけるし、そのいたずらぶりは日増しにエスカレートするばかりです。止り木を新しいのに換えながら、「いいかげんにしろよ。」とにらみつけると、反省するどころか、羽根を逆立てて怒り、止り木に趾をコンコン打ちつけ、新しく組んだばかりの丸太をバリバリかみ砕き、「何か文句あるわけ。」といったふうな態度です。負け!! でも、何となく、例年よりは元気に見えます。羽根のつやや眼つきが違います。ストレス解消には丸太かじりが一番なのかも知れません。



地震察知力

3月21日11時33分、静かに点滴を受けていたキツネが突然騒ぎ出し、押えられないほど暴れ始めた。点滴を中止し、放してやると、隅にじつとうづくまつてしまった。今まで立ち上がることもできなかつたのに不可思議なことや…と思っていたら、ちょうどその時刻に地震があり、浦河震度6、旭川震度3と報じられた。このキツネは、交通事故で重症を負い、7日前に入園したばかりなのに……。それに反し、地震に気付いた飼育係は何と1人もいませんでした。

僕んちのシマリス



皆さん、シマリスつて知っていますか。背中に5本の縞があり、日本では北海道にだけ住んでいる可愛い動物です。よくテレビのコマーシャルに出てくるやつです。今僕んちには2匹のシマリスがいます。朝早くから忙がしく遊び回り、餌を食べ、見ているとおもしろく愛らしいものです。ところで皆さんはリスについてどんなイメージを持っていますか。木登りが上手で、すばしっこく、いつも木の実をかじっている小さくて可愛いやつ……といったところでしょうか。僕は今まで6匹のリスを飼育してきましたが、中にはちよつとおかしなやつもいました。運動神経が鈍く木登りの下手なリスとか、餌をやると、他のリスを押しつけて一人占めし、クルミやドングリの殻を他のリスが割った所で横取りする凶々しいリスがいて、リスもいろいろだなあと思つてしまいます。それから、リスつていうのは、割りとおアホなところがあり、巣の入口より大きな餌をくわえて巣に入れなくなり、他のリスに取られたり、ボロボロをくわえて巣に運ぶとき自分でそのボロボロを踏んでいて動けなかつたり、見ていると、とてもおもしろいんですが、イメージダウンでもありました。でも、そこがとても可愛いくて、ずいぶんと親しみを感じました。

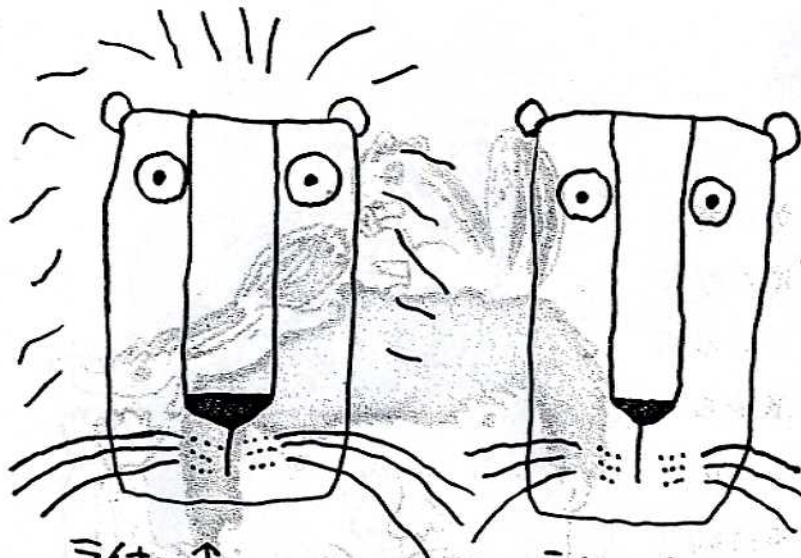


やはり自分で動物を飼うときは、ただ好きで飼うのではなく、愛情を持つてやるのが大切だと思つています。動物を思いやる気持ち、これを大切にしようと思つています。そして、このことを私の周りの人たちに伝えてゆこうと思つています。

私の一言



旭川農業高等学校
松島 守



ライオン♂
 ●たてがみが、とびつて
 が、こぶくなくました。

ライオン♀

表紙のことは

水禽舎が新しくできて、水鳥たちが全国各地の動物園からやつて来た。札幌円山動物園からは、インドガン、カルガモが、名古屋東山動物園からはコクチョウが、仙台八木山動物園からはカナダガン、クロエリハクチョウ、アカツクシガモがやつて来た。オオハクチョウが釧路動物園、おびひろ動物園からやつて来た。どの水鳥たちもりっぱな管楽器を持ってやつて来た。名演奏家ぞろいだ。

動物そだん電話のあしらせ

編集後記 毎日お昼の1時から1時30分まで動物のことならなんでも相談してください。動物のおともどうぞ。



長〜い冬がようやく北へ共り、春を迎えるころとなりました。動物たちも元気に春を感じています。野生動物には、これからの繁殖の季節です。安心して子供を育てさせてやりましょう。例年より、雪が少ないような気がします。4月に入ってから雪など降りませんように。皆さんも一緒にお祈りしてください。

今号にも高校生から投稿がありました。皆さんもどうですか。一つ書いてみませんか。気軽に……。



今年は4月29日が開園日です。まってるよ……



モユク・カムイ №4	昭和57年3月30日
発行所 旭川市旭山動物園 〒078-11	旭川市東旭川町倉沼 Ⅷ 36-1104
編集人 小原源隆	編集委員 小菅正夫 阿部 寛